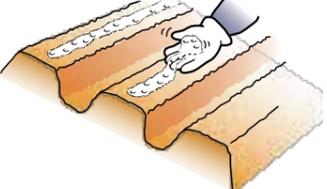


ダイアジン® 粒剤5 の上手な使い方

| | タネバエ | ネキリムシ類 |
|------------|---|---|
| 生態 | ●寒冷地では3~4回、暖地では5~6回発生します。成虫は鶏糞、堆肥などの腐敗臭に集まってくるので、有機質肥料を使ったところでは注意が必要です。 | ●ネキリムシはカブラヤガ、タマナヤガ等の幼虫の総称です。カブラヤガは年に3~4回、タマナヤガは年4~5回発生し、夜間に植物の地際部に1個ずつ産卵します。 |
| 被害 | ●幼虫は土中に潜り、発芽前の種の内部や発芽直後の茎を食害します。えだまめ・だいず・だいこん・きゅうり等で被害が大きくなります。 | ●作物の茎が地際部分で食害されて折れてしまう被害や、発芽直後の苗が一晩に数十本も食害される被害が出ます。 |
| 散布方法 | ●種の周辺に幼虫が生息するため、薬剤が種の周辺に集中するよう、播種時にうね土に作条に散布します。  注) 初期(播種時)の被害は十分に抑えますが、後期(収穫時)の被害には生育期処理の体系防除が必要となる場合があります。 | ●畑の周囲から幼虫が侵入する場合がありますので、幼虫に薬剤をより接触させるよう、播種時、植付時または定植時に散布します。  |
| 混和方法 | ●幼虫は地際部に寄生しているため、できるだけ浅く混和します。 ●キャベツ、ブロッコリー、カリフラワー、レタス、はくさい、えだまめ、だいず、ほうれんそう、かぶ、だいこん、はつかだいこん、とうもろこし(子実)、みずな、もりあざみ、オクラ、モロヘイヤ、たらのみなどの土壌表面散布の登録がある作物では混和しなくても使用できます。  | |
| その他の防除ポイント | ●魚粕・だいず粕・鶏糞等の有機質肥料は、分解時に生じる発酵臭が成虫を誘引するため、多用をさけます。 ●堆肥の施用や前作物のすきこみは、播種時までできるだけ分解を促進させます。 | ●誘蛾灯や糖蜜等で成虫を捕殺します。 ●畑の見回り等で早期発見を心がけます。 ●産卵場所や生育地となる雑草の早期除草で、発生密度の低下をはかります。 |

| コガネムシ類防除 | だいず子実害虫防除 | ケラ防除 | キスジノミハムシ防除 |
|---|--|---|--|
| ●野菜類：播種や定植の時に散布し、混和してください。 ●いちご：植付前の仮植床又は定植時の本圃に全面散布して混和してください。 ●かんしょ：夏、成虫が飛来する時期に10日間隔で2~3回作条処理し、軽く覆土してください。 ●作物の生育期に幼虫防除をする場合は、作条処理し軽く覆土してください。  | ●8月中旬~9月中旬に害虫の発生に合わせて1週間~10日間隔で2~3回処理します。 ●畑全面に散布してください。  | ●播種・定植時に全面または作条に散布し、混和してください。  | ●幼虫の根部への加害防止を重点に予防的防除をこころがけます。 ●播種時作条に散布して、軽く土壌と混和してください。 ●さらに、生育期に株元に散布、土壌混和します。  |

保管・・・直射日光を避け、食品と区別し、冷却・乾燥した所に密封して保管してください。
空袋は圃場等に放置せず、適切に処理してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。

この印刷物は平成29年1月現在の登録内容に準拠して作成しました。

日本化薬株式会社
東京都千代田区丸の内二丁目1番1号(明治安田生命ビル)
TEL.03-6731-5321 FAX.050-3730-7867

「ダイアジンは畑の常備薬です」。



各種作物に、幅広く使える殺虫剤

ダイアジン® 粒剤5

使いやすさで
考へてみよう。

野菜、まめ類、いも類。
わたしたちのまわりには、
さまざまな作物があり、
そこにはいろんな害虫がらひ、
わたしたちを困らせます。
ダイアジン粒剤は、
各種作物の主要土壌害虫や、
だいずの子実害虫に、
幅広く利用できます。
適用作物の種類が豊富で、
使いやすいダイアジン粒剤は、
いつも用意しておきたい、
あなたの畑の常備薬です。

■マメシクイガ

シロイチモジマダラメイガと同様に、幼虫はだいのサヤの内部を食害します。だいの種子が肥大する時期と成虫の発生時期が重なる場合に被害が大きくなります。関東、中部以北の寒冷地に多い害虫です。



アオクサカメムシ



ブチヒゲカメムシ



ホソヘリカメムシ



ホソヘリカメムシ被害

■カメムシ類

だいを加害するカメムシは主な種だけでも10種類近くいます。幼虫、成虫ともにサヤの表面から口針を刺し込んで、内部の子実を吸汁、加害します。被害を受けたサヤは変色したり萎縮して変形してしまいます。

■フタスジヒメハムシ

ほぼ全国に分布し、越冬成虫の産卵後8月から9月にかけて2~3回発生します。成虫はだいのあずき、いんげんの葉や莢を食害し、幼虫は根粒内部を食害します。莢表面が食害されると黒斑粒や腐敗粒の原因となります。



■シロイチモジマダラメイガ

マメシクイガと同様に、幼虫はだいのサヤの内部を食害します。だいの種子が肥大する時期と成虫の発生時期が重なる場合に被害が大きくなります。関東以西の温暖地域に多い害虫です。



■ダイズサヤタマバエ

だいのサヤに寄生して、堅いコブをつくるため、サヤは奇形となり、子実の生長も止まってしまいます。関東以西の温暖地で発生が多い害虫です。

ダイアジノンは畑の常備薬です。

各種作物に幅広く使える殺虫剤

ダイアジン® 粒剤5

- 有効成分：ダイアジノン (PRTR・1種) 5.0%
- 性状：類白色細粒
- 毒性：普通物*

*普通物とは毒劇物に該当しないものをさしている総称

子実害虫 だいの

子実を直接加害する子実害虫は、**だいで最も重要な害虫です。**
ダイアジノン粒剤を畑全面に散布することで、**主要な子実害虫を省力的に同時防除できます。**



カブラヤガ被害



カブラヤガ幼虫



カブラヤガ成虫



タマナヤガ成虫

■ネキリムシ類

ネキリムシ類の主なものでは、カブラヤガとタマナヤガがあげられます。いずれの幼虫も作物の苗を株元から切断したり、生長点を食害して生育不良や欠株を生じさせます。

加害作物

いも類、かぼちゃ、カリフラワー、キャベツ、きゅうり、すいか、だいこん、トマト、なす、にんじん、はくさい、ピーマン、非結球アブラナ科葉菜類、ブロッコリー、メロン、レタスなど。



■タネバエ

幼虫は種子を食害して発芽を阻止したり、また発芽後の幼芽も加害し、枯死させます。

加害作物

だいこん、だいで・えだまめ、たまねぎ、ほうれんそうなど。



■タマネギバエ

幼虫は地下部を食害しながら株を移動します。被害株は萎凋、変色し、枯死します。

加害作物

たまねぎ

土壌害虫

畑作物の重要な土壌害虫は種類が多く、しかも地下で加害するため、種類の特定や防除が困難とされています。そんな土壌害虫の防除には、**ダイアジノンの幅広い殺虫力がたいへん有効です。**また、ネキリムシ類やケラ、タネバエなど**幼苗期に加害する害虫には、被害を受ける前の予防的な処理が効果的です。**



■キスジノミハムシ

だいこん等のアブラナ科野菜に被害が発生します。キスジノミハムシは、幼虫が根部の表面を食害するので、根の表面が孔状、サメ肌状、ナメリ状となり、作物の商品価値が著しく落ちます。アブラナ科野菜の連作圃場で発生が多くなります。



ドウガネブイブイ成虫



ドウガネブイブイ幼虫

■コガネムシ類

コガネムシ類にはドウガネブイブイ、ヒメコガネ、アカビロウドコガネをはじめ多くの種類があります。いずれのコガネムシでも幼虫が根を食害し、生育不良や立枯れを生じさせます。とくにいも類やらっかせいではいもやサヤがかじられ、被害が大きくなります。

加害作物

いちご、カリフラワー、かんしょ、キャベツ、きゅうり、芝、すいか、だいこん、だいで、トマト、なす、はくさい、ピーマン、ブロッコリー、メロン、レタスなど。



ドウガネブイブイ被害



ヒメコガネ成虫



■ケラ

作物の種子や苗の根や地際部分を食害し、とくにいも類ではいもを加害します。また土中を縦横に移動し、株を浮上がらせてしまいます。

加害作物

カリフラワー、かんしょ、キャベツ、きゅうり、すいか、だいこん、たまねぎ、トマト、なす、はくさい、ピーマン、非結球アブラナ科葉菜類、ブロッコリー、メロン、レタスなど。